

# 3-6

新人からベテランまで見ながらできる口腔ケア

様々な職種と作る口腔ケアマニュアル

特別養護老人ホーム ゆとりえ

発表者：介護職員 長嶺 茜

共同研究者：菊池 政之

所在地：東京都武蔵野市吉祥寺南町4-25-5

共同研究者：松本 剛一

TEL：0422-72-0311

E-mail：yutorieday@parkcity.ne.jp

FAX：0422-72-0321

今回の発表の施設  
またはサービスの  
概要

30床という小規模施設であるからこそできる口腔ケアマニュアルの作成。  
30名中口腔ケア全介助18名 一部介助者7名 声掛けのみ1名 自立者4名  
の方々が生活されています。

#### <取り組んだ課題>

- 口腔ケアの重要性の統一理解
- 新人職員でもポイントを押さえ安定した介助を提供できるようなマニュアルの作成。
- ADL の変化に伴う介助内容の見直し
- 嚥下困難者の適切な口腔ケアの確立
- 歯科医師からのアドバイス内容をどのように日常の介助に役立てるか。

#### <具体的な取り組み>

- 小規模施設であり、職員数も少ないため、プロジェクトチームは3名で行う事とした。予め責任者のみ選出し、残りの2名は常勤 非常勤問わず公募という形を開設以来初めて試みた。
- 活動期間の目標を3ヶ月と定め行ったため、メンバー内の役割分担の明確化。
  - ・責任者として全体の把握、医務、協力歯科医との連絡調整に1名。
  - ・歯科医師来所時の診断に付き添い、受けたアドバイス内容の整理、連絡に1名。
  - ・マニュアルへの転記、作成に1名。
- 対象者の再選出
- 分かり易いフォーマットの作成

- 誕生日月に協力訪問歯科医の診察を受けているが、毎月+2~5名を診察してもらえるようなメンバー割の調整。

#### <活動の成果と評価>

- 個々の自歯の有無や義歯の種類（部分義歯なのか総義歯なのか）うがいの可・不可、歯科医師から勧められた使用材料を明確に表記する事で、必要に応じた内容での口腔ケアが実施できるようになった。
- 統一した口腔ケアの重要性を理解することにより、よりよい介助が提供できるようになり、以前に増し歯科医から良い評価をもらえるようになった。
- 問題意識とモチベーションの向上につながった。

#### <今後の課題>

- 柔軟なマニュアル内容の見直しと定期的な見直し。
- 改定時の新たなプロジェクトチームメンバーの選出。

#### 【メモ欄】